

レストラン・マジシャンズ・ガイドブック
プロとして成功するための27のステップ

お試し版

著

ジェリー・マグレガー
ジム・ペース

翻訳

滝沢 敦

スクリプト・マヌーヴァ
株式会社リアライズ・ユア・マジック

 **scriptmaneuver**

注意

本ファイルは『レストラン・マジシャンズ・ガイドブック』の一部を抜粋したサンプルです。実際の書籍版とは表記のことなる部分もあります。

株式会社リアライズ・ユア・マジック
スク립ト・マヌーヴァ

目次

第一部 考え方および将来の展望

レストラン・マジックをどう考えいかに仕事を獲得するのか

- 第1章 いかにしてレストラン・マジシャンとして成功するか 10
- 第2章 マジック哲学 15
- 第3章 レストラン・マジックを選択する理由 21
- 第4章 売り込みをするべきレストランと避けるべきレストラン 25
- 第5章 最初のアプローチ 29
- 第6章 電話をかける 33
- 第7章 契約を取る 38
- 第8章 私がオーディションを嫌う理由 45
- 第9章 料金設定 48

第二部 準備と計画

レストラン・マジックを作るための原則

- 第10章 長期契約の秘訣 54

第11章	マジックの選び方	59
第12章	不適切なマジック	69
第13章	本番までに行う準備	72
第14章	レストラン・マジックのポイント	77
第15章	身だしなみについて	87
第16章	レストランに適しているマジック	92

第三部 演技と実用性

何を、どう演じるべきか

第17章	ルーティンを組み立て、自分用に調整する	102
第18章	オープニング用マジック	110
第19章	中間用マジック	116
第20章	クライマックス用マジック	125
第21章	特定の観客への接し方	136

第四部 提案と優先事項

レストラン・マジシャンとして生計を立てるには

第22章	収入を上げる秘訣	152
------	----------	-----

第23章	チップについて	156
第24章	スタッフとの関係を作る	160
第25章	宣伝をする	165
第26章	レストランを去るとき	167
第27章	契約書	169

売り込みをするべきレストランと避けるべきレストラン

働く場所を見つけるポイント

- ・ 流行っている高級店を探す。
- ・ レストランのことを知る。
- ・ レストランの客層がマジックを好みそうか判断する。
- ・ 個人経営のレストランは仕事を得やすい。

あまりにも多くのマジシャンが、下準備も無しにレストランでの仕事を探し始めて失敗しています。そのレストランの情報を何も持たないまま店に入り、マネージャーに雇ってくれと話をするので。レストランでマジックを演じるという仕事を得るためには、まず自分自身を商品として売り込むセールスマンにならなくてはけません。トップ・セールスマンは、商品購入の可能性を上げるために顧客のリサーチをしつかり行います。多少なりとも調査が必要なのです。

私が仕事を探すときは、まず最新版のイエローページを調べます。広告を見れば、家族向けの高級レストランや、流行っている今どきのレストランが大体分かります。ファースト・フードや、上品なフレンチ・レストランは、仕事は貰えないので外します。低価格のレストランにはマジシャンを雇う予算がないので、ファミリー・レストランもダメです。

新聞に載っているレストランの広告（都市部に住んでいるなら、知名度の高いレストランのレビュー）を読んでください。「知名度の高い」と書いたのは、ほとんどの新聞のレビューは新しいレストランに限られているからです。新しいレストランのオーナーは予算のすべてを店そのものにつぎ込むので、マジシャンを雇う余裕は無いでしょう。探すべきは、すでに成功していて、忙しくて、その状態を保とうとしているレストランです。

レストランを何店か選んだらまずは直接訪ねてみましょう。忙しいはずの時間帯、つまり午後五時から七時の間に行き、さっと店内を見回します。雰囲気はどうでしょうか？ くだびれた感じがするなら回れ右をして次の店に移動します。カーペットや清掃にお金をかけなくなった店は既にコスト・カットを始めている店なので、マジシャンを雇う予算はありません。

中には、一度レストランに入ったらバツが悪くて出られない、という人もいますでしょう。一度店に入ったら、座らずに店を出るなど行儀が悪くてできない、という人です。レストランを出る恥ずかしさを味わうくらいなら、プトメイン中毒に耐えてお金を支払うほうが良いとでも言うのでしょうか。食べたくもない料理にお金を払ってはいけません。それよりも「アウト」を用意しましょう。例えばトイレを貸してもらおう、近くの映画館の場所を尋ねる、貸し切りでパーティができるか質問する、などです。教えてもらったら、店を出て、次の店に行くのです。

雰囲気の良いそうな店だったら中に入り、その場で少し時間をとって客層を見極めます。ビジネス

マンばかりの店なら、取引先から伝言が届いていないかと受付で尋ね、店を出しましょう。平均年齢が六十五才くらいのお店なら、おじいさんが車から出るのを手伝ってくると言って、そのまま立ち去ります。ここで探しているのは家族やカップルが食べに来る、イメージを大切にしたいと思っっている、忙しいレストランです。そのような店が見つかったら、そこで食事をします。

分かりきったアドバイスだと思われるかも知れませんが、これを実行しない人が本当に多いのです。テーブルに一時間座っていれば客層を観察できるし、ウェイトレスとおしゃべりして運営状態も聞き出せるし、人気のメニューが分かるし、価格帯も分かります。マネージャーと出演交渉をするときに必要な情報は、これだけで十分です。

最も交渉しやすいのは、個人経営のレストランです。チェーン経営のレストランは、マジシャンをひとり雇う決定を出すために、長い時間がかかります。企業と契約するのはとても難しいことです。会社が大きすぎると誰も決定の責任を負おうとしません。その結果、マジシャンを雇うべきだと現場の人たちが思ったとしても、「却下」されるのです。以前私はTGIフライデーズ社と交渉を行ったことがありますが。マネージャーは私を気に入ってくれたし、ゼネラル・マネージャーも乗り気でした。エリア・マネージャーも社内の人たちも、みな私を雇いたいと言ってくれていました。しかし、誰ひとりとして「承認する権限」を持っていませんでした。結果として、次のような手紙を受け取りました。「素晴らしいご提案をありがとうございます。しかし弊社は既に、すべてが滞りなく行われている状態ですので、天からの啓示がない限りは、我々は手を出さないほうが良いと判断致しました」

スチュアート・アンダーソンのチェーン・レストランに決断してもらうまでには一年かかりました。最終的には承認があり、二年ほど働き、結果を残すこともできました。企業の持つ役割の一つは、社員を危険から守るというのですが、そこには決断を下すという危険から守ることも入っているようです。

唯一の例外はレッド・ライオン・ホテルで、ここでは国中のチェーンで多くのマジシャンが働いています。リゾート・ホテルは、予算にエンターテイメント費が組み込まれているので、マジシャンが交渉する余地はあるでしょう。しかし家族経営や個人経営のレストランと交渉するほうがずっと簡単なのです。直接経営者と話ができるし、承認の権限を持っている経営者と話すことで、簡単に交渉を進められるからです。

特定の観客への接し方

ここまでで素晴らしい手順の準備ができ、レストラン・マジシャンとして働くノウハウも大体理解できたと思います。しかしまだお伝えしていない必須情報があります。それは特定の観客への接し方。レストランではあらゆるタイプの人が観客となります。良いマジシャンは、特別な観客に合わせてどう演技を調整するか、しっかりと考えておくものです。

子供

子供を相手に演じる時は、特別な責任が生じます。家族向けレストランで働くのなら、ほとんどの時間を子供相手に演じることになるので、子供用のルーティンを考えなければいけません。極端なくらい単純でわかりやすい手順にする必要があります。スポンジ・バニー、ミニチュア・ダイ・ボックス、ボウル・マジックなど。子供は選んだカードを忘れてしまうので、カード・マジックは不向きです。

肝に銘じておいて欲しいことは、「子供はだまされることを嫌う」ということです。自分だけは大ま

れまい、と躍起になります。サッカー・トリックや子供をネタにして笑いを取るようなマジックは演じないでください。一方で何かが出現する現象は必ず受けるので、ボウル・マジックや、マイザーズ・ドリム、エッグ・バッグなどは良いでしょう。コイン・マジックも受けますが、常にコインを隠している位置を移動させておかないと、子供はどこにあるか大声で言ってしまう（コインは、消すよりも出した方が受けます）。

レストラン・マジシャンがよく子供相手に演じるマジックとしては、ジェリー・アンドラスのリング・ピン、マックス・ロンドノのエターナル・ストリングなどがありますし、子供がアクセサリーをつけている場合はドン・アランのリング・フライトが使えます。カラーリング・ブックやファンケンリング、スネーク・イン・ザ・カンを使うマジシャンもいます。どれもとても受けるマジックですが、私はなるべく道具を持ち運びたくありません。もちろん、バルーン・アニマルをその場で作るといつでも喜んでもらえます（空気に入れはすばやく取り出すこと）。バルーン・アニマルを作るなら、必ず子供たちの目の前で作りましょう。ある店のオープニング・イベントに参加したことがあります、このときはクラウンがあらかじめ何百ものバルーン・アニマルを作っておき、それをひたすら観客に渡していました。つまらないことこの上なしです。子供は、細長いバルーンが動物の形になっていくプロセスに魅せられるのですから。

また危険に見えることは絶対に子供相手に演じないこと。子供がマネしたと、後でマネージャーから叱られます。以前、マジシャンがタバコを鼻に吸い込む演技をしていたのを見ました。それを見た五歳の子供が何をしようとしたか、もうお分かりですよね。頭を使いましょう。マネされると危険な現象は、絶対に演じてはいけません。最近マック・キングがテレビで、フォークを目に突き刺すジョークを解説していました。マックは素晴らしいマジシャンですが、ゴールドデン・タイムのテレビ番組であんなもの

をやるな、と誰も注意しなかったのでしょうか。アメリカの家庭に暴力を持ち込むのは、警察ドラマの役割です。優しく楽しいマジシャンがすべきことではありません（もちろん、口の立つやかましい子供にフォークを突き刺したいと思うことはしよつちゅうありますが…）。

ドク・ヒルフォードが「トウエンティ・ミニッツ・ウィズ・バルーン」(Twenty minutes with a Balloon)」という素晴らしいビデオを出しています。レストランで子供相手にマジックを演じる機会が多い人にはお勧めです。学校の講堂で撮影されたものですが、レストラン・マジックで使えるアイデアがたくさん得られるはずです。

私はいつも大人を相手に演じているので、観客に子供がいるときは彼らを例外的な特別な観客とみなして、ひとつだけ子供向けのマジックを演じます。親は自分の子供が楽しんでいるのを見たがるものなので、これは絶対にした方がよいでしょう。クローズアップ・ケースに、ドン・アランのエッグ・オン・ヘッドを入れておき、子供がレストランに入ってくるのが見えると、急いで取りに行きます。これは二分ほどの手順で、楽しいマジックです。最後にはお菓子の詰まったケースを出現させて、お菓子を一つ子供にあげて終わります。

たくさん質問をしたり、何かやってみてもらったりして、子供をマジックに巻き込みましょう。赤ちゃんに話しかけるような子供口調で話しかけてはいけません。笑わせ、テンポよく演じ、彼らを味方につけるのです。小さな子供は本当にマジシャンの「不思議な力」を怖がる時があるので笑顔をやさず、優しく接してください。恥ずかしがりやの子供には膝をついて視線を子供と同じ高さにして、ゆっくりした口調で話しかけながら、サムチップの準備をします。子供のナプキンから色とりどりのシルクを出現させると、恥ずかしがりやの子供も笑ってくれます。子供を笑わせれば親の好感度も上がります。

年齢が上の子供は、自分を「大人だ」と見せたがっているので、扱いが難しくなります。トリックの種類明かしを大声で言って、自分の知識をひけらかそうとする子もいます。これに對抗してはいけません。カール・チャールズは、著書「マニュアル・オブ・レストラン・マジック (Manual of Restaurant Magic)」の中で、マジックを演じ始める前に「どのマジックにもタネや仕掛けがあります。タネや仕掛けがわかった方は、私とあなただけの秘密として、どうぞ胸にしまっておいてください」と言うように提案しています。

それでも、親よりも頭がよくて口の達者な子供を主役にしたテレビ番組がたくさんあるくらいですから、嫉のなっていない子供は必ずやってくるものです。できるだけ前向きに、短く演じて、憎たらしい子供の首を絞めることなく、その場を離るようしましょう。子供が騒いでいるのに親が何も言わないなら、丁寧な態度で、静かにしてもらえないとマジックを演じられない、と言います。反対に、もし子供が素晴らしい観客になってくれたときは、ご褒美をあげましょう。

最後のコツは、子供ひとりひとりを別個に考えるということです。ある子供にうまくいったことが、別の子供にうまくいくとは限りません。大人と同じです。特に、これは十代の子供に当てはまります。マジックを好きな子もいれば、見たくないという子もいます。十代の子供は何にでも否定的だから一番演じにくい、と文句を言うマジシャンがいますが、そうは思いません。大人と同じように扱えば、たいしてマジックを楽しんでくれます。彼らを笑いのネタにせず、大人と同様に接してください。流行の音楽やテレビの人気番組など若者文化について話をするので、子供とうまくつながりを持つマジシャンもいますが、私はそのような技術は持っていません。無理にやろうとすれば、若者ぶろうとがんばりすぎて、イタい四十男に思われるのがオチでしょう。しかし大人を相手にしているときと同じよう

に演じれば、大抵はうまくいくものです。

アツアツのカップル

二人の関係を「読み取る」能力を身に着けましょう。テーブルに男性と女性が二人で座っている場合、マジックを見たがっているとは限りません。しかし、それがもし初めてのデートだとしたら、マジックを演じることで二人の緊張をほぐすことができるかも知れません。しかし、もちろん反対のこともあります。以前、こんなケースがありました。テーブルに近付くと、まだ何もしないうちから「離婚について話し合っているところだから、向こうに行つてくれない？」と言われてしまったのです！

テーブルへの近づき方はきわめて重要です。アイコンタクトを取ったり、自己紹介をするときに、マジックを見たがっているかどうか分かります。レストランのスタッフとわかるように名札をつけることによつて、近づいたときに警戒されないようにしているレストラン・マジシャンはたくさんいます。ジェリーはまず「こんばんは、お食事を楽しんでいらつしやいますか？」と話しかけるようにしています。その一方でジムは何も言わず、近づいていってマジックを始めます。どちらも有効な方法です。カップルがあからさまに嫌がったら、食事をお楽しみくださいと言つてその場を去ればいいだけです。

多くのマジックの本では、女性のほうが感情表現が豊かなので女性に対して演じ始めることを薦めています。しかしカップルの場合はこの法則は無視して、男性から始めてください。同席の女性に対して特別な注意を払う相手には、誰であれ突っかかってくるという、実に男らしい人が世の中にはたくさんいるのです。まず男性を相手にマジックを演じてから、次のマジックを女性に向かって演じてもいいか

という許可を取ります。男女差別だと思われるかも知れませんが、これが現実なのです。男性を味方につければ、安心して女性を相手に演じられるでしょう。まず男性に花を持たせましょう。私はマイケル・クロースの「おでこと塩ビン」を演じますが、これは男性が女性の心を読むという設定なので、男性をすぐに私の味方につけられます。

前章で解説したジムのサイン・カードは、二人がより親密になると仄めかしているのです。カップル向けのマジックとして最適です。ルーティンの最後にロマンチックな手順を演じると、好感度が増します。

ときどき女性の方が積極的で、男性が石のように静かに座っていることがあります。気を悪くしてはいけません。表現がとてめ控えめな男性もいるのです。私に過去最高額のチップをくれた人は、マジックを演じている間にはこりともしなかつた男性客でした。お連れの女性の目に、その男性が格好良く見えるようなマジックを演じたことが、気に入ってもらえたのでしょうか。

まず男性の許可を得ることです。それが無理ならさっさとショーを終わらせるか、最低でも、女性を関わらせない演技をしてください。

私は観客の女性をナンパしたことやデートに誘ったことは、一度もありません（ジェリーからも一言「私もありません。妻は、他の女性とデートするというジョークで笑うようなセンスを持ちあわせてはいないのです」）。レストラン・マジックはとても近い状態で演じるので、特別に親しくなったような雰囲気になることもあります。誰からも殴られることのないように、紳士的に振る舞ってください。

数少ない女性のレストラン・マジシャンにも、やはり男性から始めることを強く勧めます。相手が誰であれ、女性は自分以外の女性を競争相手とみなすものだからです。まず男性を味方につけられるようなオーブニング手順を演じたあとに、一番楽しい手順を女性だけに向かって演じるのが良いでしょう。

ビジネスマン

一番判断が難しいのは、スーツ姿の二人連れです。仕事の話をしているようなら、そのテーブルには近づかないようにします。会話が途切れたときに、テーブルまで行って自己紹介し、年上に向かつて最初のトリックを演じます。年上の人が感心してくれば、もう一人も合わせてくれます。年上の人が興味を示さなければ、もう一人がマジックをいくら見たいと思っても、演じることに意味がありません。続けられれば、逆にその人に迷惑をかけてしまうことになります。

どういうわけか、男性の二人連れはコイン・マジックに興味を示さないようです。無難なのはカード・マジックです。最後に演じる手順にはフェクターのザッツ・イットのような強力な手順が向いています。お札を使ったマジックもよく受けます。何かが変化する現象や、チョップ・カップも受けます。本書で解説したジムのスティーリング・アウェイはビジネスマンの二人組みに最適ですし、マクドナルド・フオー・エーセスなどのスライハンド・マジックもいい反応が返ってきます。

私はよく「ギャンブラーかカードゲームで負け知らずの男が、ちよつとした秘密を教えにきた」というストーリーで演技を進めます。要望があつたときは、座つてギャンブラー・デモンストレーションを行うこともあります。ここでも、二人を味方につけ、強力なマジックを見せて、食事が出てくる前に席を離れるというルールは守ってください。

問題のある人

たまに、どうしようもない人がいます。マジシャンに喰ってかかってくる、トリックの仕掛けをみんなに話したりする人たちです。中には、あまつさえ自分でやるうとする人もいます。そんなときはカーク・チャールズのアドバイスに従いましょう。「自尊、心の戦いに巻き込まれるな」このような観客のいるテーブルでマジックを見せると強要されたら、絶対に仕掛けが分からないようなマジックをひとつ演じて、そのテーブルから離れるのが良いでしょう。もつと見せてほしいと頼まれても、戻ってはいけません。大きなグルーブに演じているときに邪魔をする人がいても、身の程を思い知らせてやるうとしてはいけません。反対に、その人がヒーローになれるようなマジックを演じるべきです。その人は自分で望んだようにヒーローになれるし、マジシャンもそんな人を持ち上げるだけの度量があることを示すことにもなります。

男女問わず、酔っぱらっている人がいるテーブルには、一歩も近づかないことをお奨めします。マジックを見せるだけ無駄。いわゆる豚に真珠です。

しかし、何杯かお酒を飲んでいるからといって、酔っ払っているとは限りません。機嫌よくなっているだけかも知れません。その場合は子供を相手に行うときと同じように考えて、短く、見た目にわかりやすいマジックを行いましょう。道具を持たせてはいけません。またアルコールが入っている人は反応が遅めなので、大抵どんな物でもスチールして出現させられます。ただし、酔っ払った脳みそがトリックのインパクトを理解するまで待つ必要はありませんが。

笑みを絶やさず、丁寧な態度をとり続けてください。あなたが礼儀正しく、身なりもきちんとしているレストランのスタッフであるということが、問題のある人を抑えるのに大きな効果があります。

※書籍版のこの章には、他にも以下の来店者への対応も書かれています。

- ・家族向け
- ・マジシャン
- ・自分の家族
- ・リピーター
- ・団体客
- ・観客がいない場合